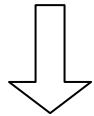


利尻山登山利用のあり方の検討について

背景

- ・ 利尻山は、最北の百名山として、年間約1万人の登山者が訪れる山
- ・ 登山者によるし尿問題や登山道の荒廃が著しくなってきた



これまでの主な取組み

① 携帯トイレの普及

- ・ H11～利尻町・利尻富士町が中心となり、携帯トイレの普及に力を入れた。
- ・ 島内での販売、専用トイレブースも設置し、全国で最も携帯トイレが普及。

② 登山者への働きかけ・ソフト対策

利尻山登山道等維持管理連絡協議会（以下、「協議会」）などでは、

- ・ 利尻ルールの策定、呼びかけ、危険箇所の周知
- ・ ストックキャップの販売
- ・ ツアー登山を企画する際の配慮事項の呼びかけ
- ・ 宿泊・観光関係者向けの勉強会の開催 などを実施

③ 登山道の点検・補修

- ・ 協議会とともに、登山道の点検、補修や試験的な整備を実施。

④ 登山道の整備

- ・ 環境省では平成15年から登山道の現況調査を始め、登山道整備の基本計画を策定。

⑤ その他

- ・ 環境省アクティブ・レンジャー(H18～)、林野庁グリーンサポートスタッフ(H19～)が配置され、登山道の巡視や軽易な維持補修、利用指導や登山情報の発信を実施。

■これまでの取り組みの中でわかってきたこと

- ・利尻山は自然に崩れる山。特に9合目より上は自然崩壊が著しい。
- ・登山道の整備だけでは、対策に限界がある。
- ・脆弱な地質の利尻山にとって、利用圧が登山道に与える影響は大きい。
→ このままの利用では、いつまでも登り続けられないかもしれない。
- ・整備では、登山者の安全を確保するのは困難。
- ・軽装の登山者や安易な登山が絶えず、遭難やけがも継続的に発生している。
→ 登山者自身の十分な心構えと、さらなる協力が得られないか。



どうしたらいいのだろうか？

検討の内容

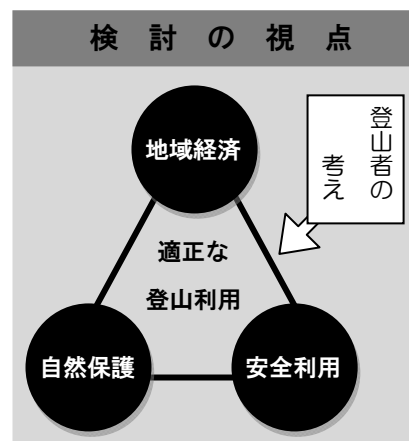
利尻山の現状、特性及び経緯を踏まえたうえで、利尻山の「①登山利用のあり方」を定め、「②対策」について検討する。

①登山利用のあり方

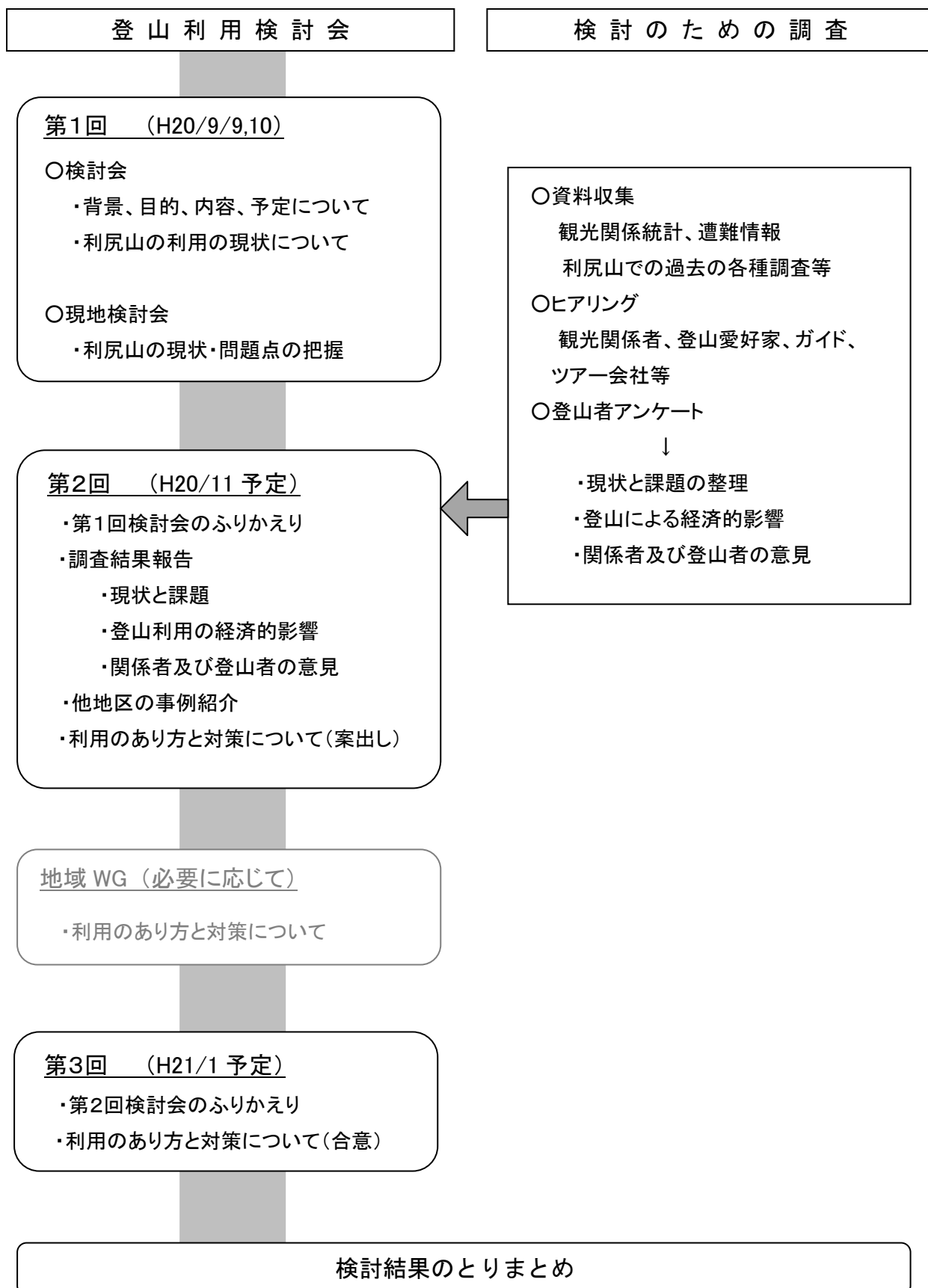
- ・利尻山の自然特性に見合った利用のあり方とは？
- ・登山利用がどうあるべきか、どうあって欲しいか。

②対策

- ・利用圧そのものを抑える、登山者のさらなる協力など。
- ・地域や行政で何をすべきか、何ができるか。
- ・効果、地域経済への影響、実現性、優先度はどうか。



● 検討の進め方



危険箇所 ガイド

身を守るのは事前の知識です。

- 利尻山の登山は中級者から上級者向けです。
- 自分の体力や技術に合った登山計画を立ててください。
- 9合目以上は両コースとも危険な箇所が多くなります。
- 雨の日の登山は登山道に大きなダメージを与え、ルートの間違えたり、滑落・転落などの危険性が高まりますので、極力避けてください。
- 滑りやすい登山道でも、植生部分には足を踏み入れないでください。
- 夜間登山はコースの視認性が極端に悪くなりますので避けてください。
- 登山道へのダメージを少なくするために、適切な登山靴を着用し一歩一歩を確実に運ぶ、道に優しい登山を心がけてください。

山の怖さを
知っていますか？

- **必ず守ってください。**
- **【利尻ルール その2】**ストックの利用には先端部分にキャップをして、登山道の侵食を軽減してください。また合流点から上では極力使用をご遠慮ください。
- **【利尻ルール その3】**落石事故につながりますので、頂上では小さな石でも沢など下方向へ落とさないようにしてください。

緊急連絡先

- 杓形駐在所 0163-84-2110 ● 鷲泊駐在所 0163-82-2110
- 利尻町役場 0163-84-2345 ● 利尻富士町役場 0163-82-1111

利尻山登山道等維持管理連絡協議会
(利尻町・利尻富士町)

【鷲泊 登山コース 危険箇所】



頂上
山頂は狭く、周囲は急斜面の深い谷になっているため、立入禁止ロープ付近には近づかないように。また、最高峰である南峰は大変危険なため立入禁止となり、現在の山頂は北峰であり、現在の山頂は北峰であるこの地点。



頂上手前
頂上手前のやせ尾根。狭く一歩間違えと谷底に。歩行に注意。



合流点上部
(1) 急勾配のうえ、小石や火山灰で滑りやすい。転倒に注意。



合流点
ここから頂上までは鷲泊コース最大の難所。大変滑りやすい。足元に注意。



合流点手前
右側は切り立った崖になっているので近づかないように。

【杓形 登山コース 危険箇所】



合流地点直下
登山道の侵食防止と登山者の足場確保のため土のうを設置。優しい一歩を！



親不知子不知
(1) 足場が悪く、滑りやすいので注意。



(2) 設置しているロープはルートガイドです。ロープはつかまさないで。



(3) 上部から落石がないか目と耳で確認して横断。



避難小屋 鷲泊・杓形の避難小屋には、トイレ、水などの施設や備品はありません。利用も緊急時に限られていますので、避難小屋泊の登山計画は立てないでください。

鷲泊(おしどまり)登山コース【コースタイム約11時間】
5合目までは単調な登りが続き、6合目から8合目の長官山まではゴロ石の登りとなります。避難小屋を過ぎると高山植物の花畑が現れ、このあたりから登りが急になります。9合目を過ぎ、山頂に近づくと傾斜が増し、登山靴によってえぐられた不安定なルートとなっています。危険な箇所にはロープが張られています。

杓形(くつがた)登山コース【コースタイム約11時間】

8合目までは狭い登りが続き、特別危険な箇所はありませんが、三昧山を過ぎると険しいルートになります。最大の難所は「親不知子不知」と呼ばれる「ガレ場」を横断する箇所です。足場が悪く時々落石もありますので十分な注意が必要です。その後も鷲泊コースと合流する地点まで登山道が雨水などで侵食されて、足場の悪い箇所が続きます。

携帯トイレ

山はトイレを溜めてい
健康な山にするため
お願いがあります。

山の弱さを
知っていますか？

近年の登山ブームで、大雪山、十勝連峰、利尻山などの人気の山に大勢の登山者が押し寄せ、登山者のし尿が大きな環境問題になっています。その問題は他の多くの山にも広がり、トイレのない登山口や野営地は汚物とトイレシュレが散乱しています。そのため細菌が繁殖して水場の飲料水が飲めなくなったり、土壌汚染が進んで、動物、植物への影響が心配されています。誰の責任でもありませんが、みんなの責任でもあります。行政でもバイオトイレや携帯トイレを使うナーズを設けたり、対策を進めています。ですが、一気に全コースに設置できるわけではありません。長時間かかる日帰り登山や山中泊する登山では後ろめたい気持ちで避難小屋脇や登山道から外れてするより**携帯トイレ**を使いましょう。

利尻山登山道等維持管理連絡協議会
(利尻町・利尻富士町)

登山の前に 1

携帯トイレを購入しておきます。

【販売箇所】

- 利尻富士町 / 各宿泊施設、各物産店、各商店、コンビニエンスストア、観光案内所、キャンプ場(北麓野営場、ゆ〜に)
- 利尻町 / 各宿泊施設、観光案内所、キャンプ場(森林公園)

【携帯トイレ】

- (携帯トイレ1ケース1個、携帯トイレ1個)
- 1セット400円(税込)



登山の前に 2

携帯トイレナーズの場所を確認しておきます。

利尻山には携帯トイレナーズが5箇所設置されています。

- 篤泊コース (6・8・9合目)
- 沓形コース (6・7合目)



※詳しくは裏面の地図を参照。

携帯トイレの使い方 1



便袋を広げ、ミシン目から切り取ります。

携帯トイレの使い方 2

携帯トイレナーズの便座に袋を掛けます。
※野外で使う場合は、便袋を広げて緑を折り返し、容器状にします。



携帯トイレの使い方 3

用がすんだら写真のように(1)で切り取った便袋の端で縛ります。



携帯トイレの使い方 4

使用済携帯トイレナーズに入れて終了です。
※回収ボックスまで必ず持ち帰ってください。



協力金をお願い
携帯トイレナーズの整備・清掃等を行うため、皆様の協力をお願いします。
(募金箱は篤泊登山コース3合目の北麓野営場管理棟及びトイレ入口に設置しています。)

阪神大震災のトイレパニックを実態調査し、それを教訓として開発された製品です。高速吸収凝固シートで水分を凝固し、防菌・防疫効果にすべれ、使用中の気になる音や臭いを吸収する効果もあります。
現在、防災用として、またアウトドア・レジャーなど、自然環境を守るための一策として使われています。



下山したら

使用済みの携帯トイレは、回収ボックスに捨ててください。



【回収ボックス設置箇所】

- 北麓野営場 (篤泊登山コース3合目)
- 見返台園地 (沓形登山コース5合目)

利

尻

ル

一

ル



利 尻 ル ー ル

近年、登山者の増加により各地の山岳地で登山者のし尿処理、登山道の侵食などが深刻な問題になっています。これは最北の百名山に数えられる利尻山も例外ではなく、携帯トイレの普及活動や登山道整備に力を入れて問題に対応してきました。しかし離島であるが故の地理的条件、火山礫の重なる脆弱な土壌条件を克服することは容易ではありません。また、どんなに整備を進めても登山者一人ひとりが、自分の一歩が山へ与える影響について正しく理解し、自然環境に配慮した行動を取ることがなければ根本的な対策にはならないのです。

「出来ることから始めてみる」、利尻ルールは利尻山のみならず、自然と人とのより良い関係作りのための、はじめの一歩になるでしょう。



ルール 1

携帯トイレを使うこと

.....



ルール 2

ストックにキャップをつけること

.....



ルール 3

植物の上に座らない、踏み込まない

.....

ドラム缶27本と米俵13俵

一回の利尻登山 (10時間)での排泄量 小 500ml 大 70g × 利尻山登山者数 年間約11,000人 = 小 5,500L 大 770kg

これは利尻山への携帯トイレ導入効果の試算です。
携帯トイレを導入する前は、特に8合目付近にある避難小屋の周辺で排泄物の悪臭が漂い、使用済みのトイレトペーパーが散乱していました。
実に1年にドラム缶27本の小便と、米俵13俵分の大便が山中に放置された場合の水質や土壌への影響は、山の自然環境のみならず、離島である利尻島においては住民の生活に関わる問題なのです。



フェリーターミナル・各旅館
町役場・コンビニにて
400円で販売中

携帯トイレを知っていますか？

近年、北海道や東北の山を中心に広がりつつある動き。
それが登山者による登山者自身での排泄物の持ち帰り運動です。
これを可能にするのが「携帯トイレ」。
使い方は簡単で、袋を開けて携帯トイレ用便座に被せれば後はいつも通り。小も大もOKです。
終わったら口を結んで専用パックに収納します。漏れる心配もありませんし、匂いも出ません。
利尻山の場合、鴛泊コース・沓形コースともに登山口に使用済みトイレの回収ボックスが設置されているので、使用された方はこちらに捨ててください。
ドライブのときや非常時の備えとしても有効ですよ。

もう我慢しなくて良いのです

自然の呼びかけは、ところ構わず起こるもの。
携帯トイレがあれば、どんな時でも安心です。
しかし、出来ればそういう事は隠れてしたいと思うのが人情か。
利尻山では、鴛泊コースに3箇所（6合目・避難小屋・9合目）、沓形コースに2箇所（避難小屋・夜明かしの坂）携帯トイレ専用ブースを設置しています。
雨が降っても、風が吹いても、周りに人がいてもこの中ならリラックス出来ます。
是非、この快感をお試しあれ！！

ドンと来い！



ストックに**キャップ**をつける

「下山後の疲れがちがう」。
ストックが登山者に普及し始めてしばらく経ちますが、ストックの尖った先端が土壌を掘り起こし、登山道侵食の促進役になって、かえって歩きにくい道にしてしまうという悪循環が起きています。
利尻山の火山土壌は、手で触れるだけでボロボロ崩れ落ちてしまうほど脆く侵食されやすいので、少しでも登山道の侵食を軽減するために、ストックを使用する際は、先端にキャップをつけてください。

☆キャップは外れやすいので、ガムテープで巻いたり、接着剤でつけておくと良いでしょう。



利尻山は**火山**！！



登山道の**侵食**を予防する



利尻山では
登山道整備を行っています

整備前は、足元に火山礫の石ころが転がっていて、スリッしやすい状況でした。
まだ未整備の部分は同じ状況です。
こういう場所はスリッしやすいのですが、所々にある石ころの被っていない硬そうな岩を飛び石にすることでスムーズに歩けますよ。



9合目以上の登山道侵食の深刻な箇所には、付近の火山礫を詰めた麻袋を、階段状に設置しています。これにより登山者の足元確保と、登山道の侵食予防が期待されます。
しかし、麻袋による階段整備は耐久性の問題からあくまで応急処置と考えています。
歩きやすさという面だけでなく、土壌、生態系の保護や、原生的景観との調和も含めて、根本的にどういう対策を取るのかは、これから試行錯誤して見つけていくことになるでしょう。

登山道を踏み外すだけで失われるものがある



写真を撮るのが目的ですか？
広いところで休みたいのですか？

幾年もの時をかけて、植物や動物たちが自分たちの住むことの出来る土壌を作ってきました。彼らの住む場所にお邪魔させて頂いている私たちが今一度の好奇心で、彼らの生命の堆積を踏みつぶしてしまっても良いのでしょうか？

一步の責任



表面を覆う植生の失われた土壌は、雨が降っても水を蓄えることが出来ずに、流されてしまいます。特に利尻山のような火山礫の堆積した山は植物の育つ腐食土壌が薄く、人の踏み込みなどによって腐食土壌が失われると、登山道の浸食がたちまち進んでしまうのです。休憩時の植生への座り込みや荷物の投げ置き、融雪期や雨降り後に、ぬかるみを避けて路肩の植生を踏みつけて歩くこと、写真撮影時の踏み込みなどは、登山者一人ひとりの心がけ次第で防げることですよね。



風とともに去りぬ



例えば登山道のぬかるみ対策にスパッツをつける。休憩用に小さなマットを用意する。そんな小さな心配りがあれば良いのです。ローインパクト登山(出来る限り、その土地の生態系、景観に与える影響を少なくする)は、次の世代へこの環境を残すための、われわれに課せられた責務です。知恵と工夫で、風のように颯爽と歩いてみたいですね。

沓形コース上部の三眺山を過ぎると
目の前に大きく見える赤茶色の壁。
この崩壊地の直下をトラバースする場所が
“親知らず子知らず”

崩壊地の直下を トラバース

* 鴛泊コース合流点～山頂間から
西側斜面への落石は、この区間に落ちます。
鴛泊コース登山者も充分注意して行動して下さい。

親知らず子知らずを知っていますか？

要注意！

通過中！

耳を澄ませて、落石がないか確認したら
途中で休んだりせずに端まで渡る。
二人以上いるのなら、一人は大岩の
陰に隠れて監視しよう。
ザクザクして歩きにくいけれど
大きな石を飛び石にして進めばスムーズ
に突破できるはず。
* 濃霧時や降雨後は特に危険性が
高まるので、安易な入山は控えましょう

混雑の緩和と利尻ルールの普及にご協力ください

平成 20 年 2 月 1 日

利尻山登山道等維持管理連絡協議会

1 企画・募集段階

● 1グループの人数を適正化してください

安全管理及び登山道保全の理由から、利尻山の登山ツアーは、引率者1名に対して被引率者4～6名程度の人数設定(1グループ最大12名まで+引率者)で実施することを推奨します(利尻山のコースグレードを、旅行業ツアー登山協議会設定の「コースグレード及びガイドレシオ参考表」の「5」相当とした場合)。

なお、被引率者多数の場合は、体力レベル(歩行ペース)などで班分けをして、時間差をつけて出発することも併せて推奨します。

● 事前案内に利尻ルールを掲載してください

● 参加者にストックのキャップを用意させてください(裏面の記事もお読み下さい)

● 登山計画書を提出してください

入山口を管轄する稚内警察署へ、引率者を含めたメンバー全員の連絡先等、必要事項を記入した登山計画書を提出してください。

● 現地の最新情報を入手してください(裏面の記事もお読み下さい)

2 実施段階

● 休憩やすれ違いは、適切な場所で行なってください

すれ違いや休憩時には、人数に見合った場所への誘導を行い、周辺植生への踏み込み防止を呼びかけてください。また混雑日には、他パーティーとも調整を図って、周辺の混雑緩和を促してください。

● 利尻ルールの普及にご協力ください

利尻ルール

- ① 携帯トイレを使う
- ② スtockにキャップをつける
- ③ 植物の上に座らない、踏み込まない

利尻ルールとは、当協議会が利尻山の登山マナーとして呼びかけている地域ルールです。

募集段階からの事前案内、登山出発前の再確認、登山中の指導を行い、利尻山に訪れるより多くの方に山にやさしい歩き方をしていただけるよう、普及にご協力ください。



利尻ルール呼びかけの背景 ～急速に進む登山道荒廃～



赤茶色に見える地層は、手で触れるだけで崩れ落ちるほど脆いため、足元には崩れた礫が散積しています。

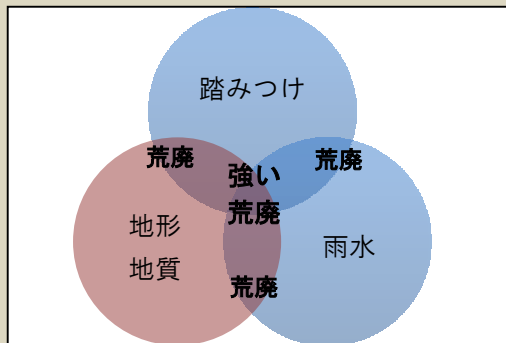


図 「登山道の荒廃要因の関係」 (橋本, 2003 を一部変更)

利尻山の登山道荒廃は、火山性の脆い地質に特徴があり、これが登山者の踏みつけによる裸地化の進行や、雨や雪どけ水による土壌洗掘の影響を増幅させています。特に9合目以上は、ここ10数年で急速に荒廃が進んでいます。当協議会では毎年登山道の維持補修に努めていますが、一度傷つけた自然を修復することは容易ではありません。そこで、登山者一人ひとりの登山マナーを向上させていくことで、踏みつけによる荒廃への影響を少しでも軽減させようというのが利尻ルール提案の背景であり、呼びかけの目的になっています。

登山ツアー実施の参考情報

お知らせ

1 携帯トイレブースの増設と位置変更をしました

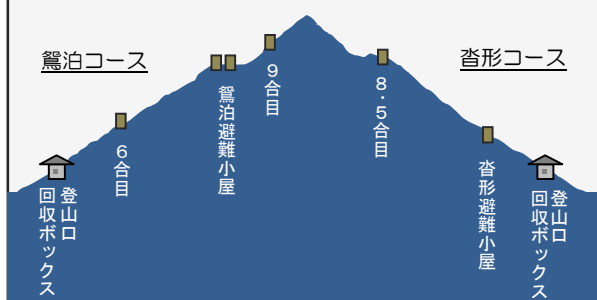
携帯トイレ普及促進のため、以下の通りトイレブースの増設と位置変更を行ないました。携帯トイレ本体は、従来通り島内各所で400円にて販売しています。

▼ 平成19年度からの変更点

- ・ 鷺泊コース避難小屋脇に1基増設
- ・ 杵形コースの携帯トイレブースの位置を、1箇所変更
旧：「夜明かしの坂（標高980m）」
→ 新：「8,5合目（標高1380m）」

携帯トイレブース位置図

■ = トイレブース



- 携帯トイレは、島内各所で400円にて販売しています。
- 使用済み携帯トイレは、各登山口にある回収ボックスにお捨てください。

2 島内でストックキャップを販売しています

登山道浸食の軽減を目的として、昨年度より利尻島内でもストックのキャップを販売しています。下記の注意事項をお読みの上ご利用下さい。

▼ スtockキャップ販売概要

- ・ 島内の宿泊施設及び、キャンプ場などで販売
- ・ 販売価格 315円（シナノ社製1本分）

〈使用上の注意〉

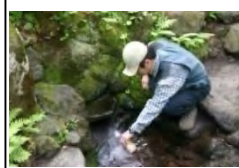
ストックのキャップは、メーカーによってサイズが異なります。シナノ社製のキャップは径が細く、押し込むことで大抵のモデルには装着可能ですが、他メーカーのキャップを装着したことによる事故について、メーカー及び利尻山登山道等維持管理連絡協議会では、責任を負いかねます。出発前に、ご自分の使用するメーカーのキャップをご用意ください。また、路面状況によってキャップの着脱を判断してください。

鷺泊コースの施設



■ 登山口（北麓野営場）

キャンプ場、トイレ、水道、公衆電話あり。携帯トイレ回収ボックスを2つ設置しています。



■ 甘露泉水

最北の日本100名水
登山口から10分程度の場所にある湧き水で、利尻登山道で唯一の水場です。



■ 携帯トイレブース

携帯トイレ専用
袋状の携帯トイレを、便座にかぶせて使用します。設置場所は左図を確認すること。



■ 鷺泊コース避難小屋

15人程度休憩可、周辺の環境保護のため、宿泊は原則禁止。
小屋の裏側に携帯トイレブースを2基設置しています。

現地情報の入手先

● パンフレット類

利尻登山に関する各種パンフレット類を発行しています。利尻富士町、または利尻町役場商工観光係までお問い合わせください。

● ホームページでの情報配信

利尻富士町、利尻町、環境省利尻礼文サロベツ国立公園のホームページで、随時、現地の最新情報を更新しています。

● お問い合わせ

利尻富士町、または利尻町役場の各商工観光係までお問い合わせください。

利尻富士町役場	0163-82-1114
利尻町役場	0163-84-2345

利尻山登山道の基本計画

1. 利尻山登山道整備の基本的な考え方

① 自然環境への影響を最小限にとどめ、荒廃箇所の修復を最優先とした順応的な保全対策を図る

- 利尻山特有の地質、厳しい自然条件と利用のインパクトの複合によって生じる植生や登山道の荒廃を最小限に抑制し、荒廃箇所の修復を最優先とした保全対策を図る。
- 利尻山特有の変化しやすい地質に対応した順応的な保全修復を図る。

② 利尻山にふさわしい登山道を整備する

- 日本最北の独立峰利尻山の自然環境と景観に融け込む登山道整備を図る。

③ 適正な登山利用を促すソフト面の対策と一体となった総合的な対策を図る

- (登山は元来危険を伴う行為であることから、)登山道は登山者自身の判断と責任により利用することを前提とし、荒廃箇所の危険性についての周知を図る。
- 登山利用による登山道への影響を軽減するため、登山道に関する的確な情報提供や登山マナーの周知を図る。
- 登山道における課題は整備だけでは解決できないことから、広報や利用指導、連絡体制等のソフト面の対策と合わせた整備を行う。

④ 地域、行政、登山者が連携した維持管理を目指す

- 整備・管理にあっては、地域や関係行政、登山者が一体となった取組が不可欠であることから、すみやかできめ細かな維持管理を目指した連携体制の確立や、地域の担い手育成に努める。

2. 登山道整備の方針

利尻山における登山道整備の基本的な考え方を具体的に展開するために以下の方針を設定する。

- ①登山道は人と自然のかかわりを保つための施設であり、大切な自然を守り継承することを第1に考える。
- ②登山道そのものは高い自然性を保った施設であるため、必要な場所に必要最小限の整備を行う。具体的には、荒廃が著しい箇所を重点的かつ優先的に行い、新たな荒廃の恐れがある箇所について、予防的観点から必要最小限の保全対策を行う。
- ③登山道の荒廃や周辺植生への影響を抑制することを基本とし、荒廃の要因とメカニズムを把握して対策を講じる。
- ④小規模な施工とモニタリングの繰り返しにより、順応的な保全修復を行う。
- ⑤整備に際しては自然環境への影響を最優先に考慮することとし、整備による新たな荒廃を招くことのないよう対策を講じ、整備の内容や規模、工法、構造、使用材料、デザイン等に配慮する。
- ⑥適正な登山利用を促すため、登山道に標識類を配置するとともに、荒廃箇所の危険性や登山マナーについての周知を図る。
- ⑦地域や関係行政、登山者等、関係する主体が連携した永続的な維持管理体制の構築を図る。
- ⑧関係者及び登山者への情報提供や維持管理技術の伝達を通して、地域の担い手育成に努める。

鷲泊登山線 (鷲泊コース)	立地環境と歩道の分類	荒廃状況	優先事項	整備イメージ		安全管理・維持管理	課題
9合目～山頂	標高:1410m～1721m 地質:スコリア・礫 周辺植生: ダケカンバ・ミヤマハンノキ・草本 歩道の分類: 山稜・高山帯ルート	<ul style="list-style-type: none"> 登山道の拡幅 登山道の浸食 登山道の崩壊 	<ol style="list-style-type: none"> 植生、土壌の保護 景観との調和 情報発信・情報提供 	無整備 補修・修復	<ul style="list-style-type: none"> 安定している状態の箇所は無整備 登山道の拡幅・浸食を防ぐための修復整備、周辺植生への影響を抑えるための対策(排水処理、表面被覆、植生保護対策など) 危険を促す標識、登山道外への踏み出し防止の対策 コース(路線)の確定 ステップ&プール工(小型フトン箆等) 路盤固定(ジオウェブ、小型フトン箆等) 導流水制(小型ふとん箆、木柵) 法面保護(ジオウェブ、植生マット、種子播種等) 土留め(土のう、小型ふとん箆等) 路線確定、踏出防止(ロープ等) 標識 ※山体崩壊により登山道が通行不能となった場合は、ルートの付け替え等について、専門家の意見を聞きながら、新たな荒廃・崩落による影響を考慮し慎重に検討する。	(安全管理) ※自然現象による危険要素(登山道の崩壊、土砂崩れ、落石など)は除去できない危険要素 ・標識等による注意喚起、情報発信、利用者指導 ・荒廃箇所の危険性についての周知や広報の取り組み ・登山者による危険箇所の通報、情報収集の協力 ※人為的影響により発生した危険要素(3mスリット) ・3mスリット部の法面对策 (維持管理) ・登山シーズン前、繁忙期の定期的な点検 ・破損した施設の撤去、取替え (その他) ・登山者のマナー、ルールの徹底	<ul style="list-style-type: none"> 補修・修復箇所のこまめな点検・補修が必要 維持管理体制の確立、人材育成 周知や広報の取り組み 3mスリット部の法面对策
長官山～9合目	標高:1218m～1410m 地質:シルト・スコリア・礫 周辺植生: ダケカンバ・ミヤマハンノキ・ハイマツ・チシマザサ 歩道の分類: 山麓・樹林帯ルート	<ul style="list-style-type: none"> 登山道の水路化 登山道の浸食 登山道の拡幅 	<ol style="list-style-type: none"> 植生、土壌の保護 景観との調和 情報発信・情報提供 	無整備 補修・修復 自然同化型	<ul style="list-style-type: none"> 安定している状態の箇所は無整備 登山道の拡幅・浸食を防ぐための修復整備、周辺植生への影響を抑えるための対策(排水処理、表面被覆、植生回復など) ステップ&プール工(小型フトン箆等) 法面保護(植生マット、種子播種等) 土留め(土のう、小型ふとん箆等) 標識 現況の自然に同化することができる限り周辺の石材や倒木等を用い、浸食の拡大を防止する。最小限の資材で浸食の拡大やみ出し等を防止する。 自然同化型の整備は大雪山国立公園で実績のある近自然工法を参考とする 流水をコントロールしたうえで歩行部を確保することにより、登山道の浸食・拡幅化を抑制。これにより自然の植生回復を図る。 <ul style="list-style-type: none"> 導流水制 ステップ&プール(石組、木柵) 土留め 	(安全管理) ・標識等による注意喚起、情報発信、利用者指導 ・登山者による危険箇所の通報、情報収集の協力 (維持管理) ・登山シーズン前、繁忙期の定期的な点検 ・破損した施設の撤去、取替え ・腐食した木材の取替え ・笹刈り・枝払い ・標識の点検・補修 (その他) ・登山者のマナー、ルールの徹底	<ul style="list-style-type: none"> 補修・修復箇所の点検・補修が必要 維持管理体制の確立、人材育成 周知や広報の取組
登山口～ 長官山	標高:207m～1218m 地質:シルト、礫 周辺植生: トドマツ・エゾマツ・ダケカンバ、ダケカンバ・ミヤマハンノキ・ハイマツ 歩道の分類: 山麓・樹林帯ルート	<ul style="list-style-type: none"> 登山道のぬかるみ化 登山道の水路化 登山道の浸食 登山道の拡幅 	<ol style="list-style-type: none"> 植生、土壌の保護 景観との調和 情報発信・情報提供 	無整備 自然同化型	<ul style="list-style-type: none"> 安定している状態の箇所は無整備 現況の自然に同化することができる限り周辺の石材や倒木等を用い、浸食の拡大を防止する。最小限の資材で浸食の拡大やみ出し等を防止する。 自然同化型の整備は大雪山国立公園で実績のある近自然工法を参考とする 流水をコントロールしたうえで歩行部を確保することにより、登山道の浸食・拡幅化を抑制。これにより自然の植生回復を図る。 導流水制 ステップ&プール(石組、木柵) 土留め 	(安全管理) ・標識等による注意喚起、情報発信、利用者指導 ・登山者による危険箇所の通報、情報収集の協力 (維持管理) ・登山シーズン前、繁忙期の定期的な点検 ・破損した施設の撤去、取替え ・腐食した木材の取替え ・笹刈り・枝払い ・標識の点検・補修 (その他) ・登山者のマナー、ルールの徹底	<ul style="list-style-type: none"> 補修・修復箇所の点検・補修が必要 維持管理体制の確立、人材育成 周知や広報の取組

沓形登山線 (沓形コース)	立地環境と歩道の分類	荒廃状況	優先事項	整備イメージ		安全管理・維持管理	課題
登山口～ 三眺山	標高:407m～1460m 地質:シルト、礫 周辺植生: トドマツ・エゾマツ・ダケカンバ、ダケカンバ・ミヤマハンノキ・ハイマツ 歩道の分類: 山麓・樹林帯ルート	<ul style="list-style-type: none"> 登山道のぬかるみ化 登山道の水路化 登山道の浸食 登山道の拡幅 	<ol style="list-style-type: none"> 植生、土壌の保護 景観との調和 情報発信・情報提供 	無整備 自然同化型	<ul style="list-style-type: none"> 安定している状態の箇所は無整備 現況の自然に同化することができる限り周辺の石材や倒木等を用い、浸食の拡大を防止する。最小限の資材で浸食の拡大やみ出し等を防止する。自然同化型の整備は大雪山国立公園で実績のある近自然工法を参考とする 流水をコントロールしたうえで歩行部を確保することにより、登山道の浸食・拡幅化を抑制。これにより自然の植生回復を図る。 導流水制 ステップ&プール(石組、木柵) 土留め 	(安全管理) ・標識等による注意喚起、情報発信、利用者指導 ・登山者による危険箇所の通報、情報収集の協力 (維持管理) ・登山シーズン前、繁忙期の定期的な点検 ・破損した施設の撤去、取替え ・腐食した木材の取替え ・笹刈り・枝払い ・標識の点検・補修 (その他) ・登山者のマナー、ルールの徹底	<ul style="list-style-type: none"> 補修・修復箇所の点検・補修が必要 維持管理体制の確立、人材育成 周知や広報の取組